

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 1 区分

【発行日】平成25年4月4日 (2013.4.4)

【公表番号】特表2009-541636(P2009-541636A)

【公表日】平成21年11月26日 (2009.11.26)

【年通号数】公開・登録公報2009-047

【出願番号】特願2009-515899(P2009-515899)

【国際特許分類】

F 0 2 D 45/00 (2006.01)

【F I】

F 0 2 D 45/00 3 7 4 C

F 0 2 D 45/00 3 7 4 Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年1月17日 (2013.1.17)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 3 1】

パフォーマンスモード P M における、異なる実行ユニット 2 - i によるプログラムの実行は、同期して、または同期せずに、行なわれることが可能である。パフォーマンスモードでは、重複した処理は行なわれず、実行ユニット 2 - i は、異なる計算またはプログラムを並行して実行する。純粋なパフォーマンス駆動モード P M において、全入力信号 E_i が対応する出力信号 A_i へと接続されるか、または導かれる。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 3 3】

構成可能な切り替えロジック部 1 B では、いくつかの出力端子または出力信号 A_i が設けられているのかについて示される。さらに、切り替えロジック部 1 B には、どの入力信号 E_i がどの出力信号 A_i に作用するのかについて格納される。従って、切り替えロジック部 1 B には、異なる出力信号 A_i に入力信号 E_i を割り当てるマッピング関数 ($A b b i l d u n g s f u n k t i o n$) が格納されている。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 3 4】

処理ロジック部 1 A は、各出力信号 A_i について、どのような形態で入力信号が各出力信号に作用するのかについて定める。例えば、出力信号 A_0 は、入力信号 E_1 、 \dots 、 E_n によって生成される。これは、 $m = 1$ ならば、単純に、入力信号の連結 ($D u r c h s c h a l t u n g$) に相当する。 $M = 2$ ならば、2つの入力信号 E_1 、 E_2 が互いに比較される。この比較は、同期して、または同期せずに、回路 1 によって実行される。その際、比較はビットごとに行なわれるか、または代替的に、有意なビットのみ互いに比較さ

れる。

【誤訳訂正４】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００３９

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００３９】

パフォーマンスモードPMから比較モードVMへの切り替えは、パフォーマンスモードPMでは、様々な信号出力部へとマッピングされるか、または、連結されている（*durchschalten*）実行ユニット2 - iが、比較モードVMでは、同じ信号出力部へとマッピングされるか、もしくは連結されることによって、一般的に行なわれる。このことは、特に、実行ユニット2 - iの部分集合が設けられることによって、実現される。その際、パフォーマンス駆動モードPMでは、部分集合として考えるべき全入力信号 E_i が、対応する出力信号 A_i へと直接的に接続される。一方、比較モードVMでは、全入力信号が1つの信号出力部へとマッピングされるか、または1つの信号出力部へと連結される。代替的に、切り替えは、組み合わせが変更されることによって実現可能である。